

三輪洋子 / ジャズ・ピアニスト、作曲家 <http://yokomiwa.com/>

2011年の9月、秋吉敏子さん以来の40年ぶりに、日本人女性として二人目となるバークリー音楽大学 ジャズピアノ科の助教授に就任。

2012年、ボストンの新聞, Boston Phoenix のミュージシャン人気投票で、ボストンの ” Best Jazz Artist ” の1位を獲得!

2012年、7月に JVC Victor から新譜 ” アクト・ナチュラルリー ” がリリース!

兵庫県神戸市出身。4歳からクラシックピアノを学び、89年大阪音楽大学ピアノ科へ入学。この時期、ジャズに対する興味が募り、小曾根真の父、小曾根実(ハモンドオルガン奏者、ピアニスト)に師事。後に真の師事も受ける様になる。大阪音大卒業後、小曾根ミュージックスクールでの講師や他音楽教室での講師を勤めながら、関西地域でのライブ活動を行う。94年にジャズ理論を正規に学ぶため、バークリー音楽大学との提携校である甲陽音楽院へ入学。96年にバークリー音楽大学への奨学金オーディションにトップの成績をあげ、翌年97年にバークリーへ入学。ジョアン・ブラッキー、レイ・サンティシ等に師事。パフォーマンスに加え作曲、アレンジを学ぶ。卒業後、1999年には、バークリー・スタッフに加わり、ボーカル部門の伴奏者として働くようになる。

ケビン・マホガニー(グラミー賞受賞のWarner Bro'sのアーティスト、”Downbeat Jazz Singer of the Year” -1999年)がボストン在住の間、彼の専属ピアニストとして活動。ワシントンDCにあるケネディー・センターで行われた名誉ある”メリー・ルー・ウィリアムス・ウィメン・イン・ジャズ・フェスティバル”に選抜されたアーティストの一人として出演。2009年にはフィラデルフィア・ミュージアム・オブ・アートでのコンサート・シリーズ、ジャズ・アフターファイブの演奏者に抜擢。

2000年に結成されたYoko MIwa Trioは、ボストンのトップジャズクラブ、Ryles Jazz Club, Les Zygomates でのハウスバンドを10年近くに渡って維持する中、世界のトップジャズミュージシャン達が出演する有名な、Scullers Jazz Club スカラーズ・ジャズクラブ、そしてブルーノート経営のRegattabar レガッタ・バー・ジャズクラブでは、2009年から定期的に出演、毎回ソールドアウトというボストンでの人気で周囲を圧倒。2011年の9月には、ニューヨーク、リンカーン・センターのDizzy's Club Coca-Cola で、ジャズ・ピアニスト、Marian McPartland/マリアン・マクパートランド(全国放送・ニューヨークの人気ラジオ番組、”Piano Jazz”の長年のホストとして知られる)の93歳を祝うソールド・アウトのスペシャルショー、コカ・コーラ、ジェネレーション・イン・ジャズフェスティバルが公開録音されたが、ジャズ界の大御所ピアニスト達、マルグリュー・ミラー、ケニー・バロン、ビル・シャーロップ、マリアン・マクパートランド等と選抜されたピアニストの1人として同じステージに立ち、スタンディング・オベーションの喝采を受けた。

2011年の9月には、Berklee College of Music のピアノ科の助教授に任命。これは秋吉敏子以来の2人目の日本人女性がピアノ科のProfessor に選ばれた という歴史的な名誉あるポジションである。

2011年、10月にはYoko Miwa Trio の5th アルバム ” Live at Scullers Jazz Club” がアメリカで発売、数多くの批評家達からの絶賛、注目を浴びている。

2012年、3月末に日本で放送されたBS朝日のテレビ番組 ” アメリカ発祥の地を旅するーボストンで出会った日本のこころー” 番組内でヒューチャーされた。 オープニングソングに三輪のオリジナルの”The Day We Said Good Bye” が使われ、同じ番組がボストンー成田直行便、JALの機内でも流れている。

2012年、6月にはボストンの新聞、Boston Phenix で毎年行われるミュー ジシヤン人気投票で ボストンの” Best Jazz Artist” の1位を獲得!

2012年、7月に JVC Victor から新譜 ” アクト・ナチュラルー” がリリース! それに伴い、日本ツアーが7月ー8月、9月ー10月にかけて2回行われた。

2013年、2月には、Yoko Miwa Trio ”Live at Scullers Jazz Club” が日本のレーベル、寺島レコード・インポートから日本版としてリリースされた。

<今迄の共演者> ケビン・マホガニー、エスペランザ・スパウディング、テリ・リン・キャリントン、スライド・ハンプトン、ジョージ・ガズーン、ジョン・ファディス、ジェリー・バーゴンジ(バークリー卒業後、師事)、アルトロ・サンドバル、フィル・ウィルソン、シーラ・ジョーダン、ジョナサン・ブレイク、ジョン・ロクウッド、レベッカ・パリス、ジョー・ハント、エド・カエ等。

#### <Discography>

2001年 Yoko Miwa Trio, “ In the Mist of Time” - 徳間ジャパン

2003年 Yoko Miwa Trio ”Fadeless Flower” - ポリスター

2005年 Yoko Miwa Trio “Canopy of Stars” - ポリスター

(これら3枚のアルバムは全て、三輪のオリジナルから成る)

2008年, Yoko Miwa Trio ”The Day We Said Good Bye” - Sunshine Digital

(ボストン FMスタジオ /WGBHでのレコーディング)

2011年 Yoko Miwa Trio ” Live at Scullers Jazz Club” - Jazz Cat Amnesty アメリカ版

2012年 Yoko Miwa Trio ” Act Naturally” - JVC Victor

2013年 Yoko Miwa Trio ”Live at Scullers Jazz Club” - 寺島レコード・インポート  
日本版

三輪洋子トリオは2003年から定期的に日本ツアーを行っているが、2009年の日本ツアーでは、甲陽音楽学院時代の同級生でもあった”花・花”との共演や、名古屋ブルーノート、モントレー・ジャズ・フェスティバル等に出演。

2012年7月に、JVC Victor から新譜 ”アクト・ナチュラルー” がリリース。それに伴う日本ツアーが日本で7月-8月、9月-10月にかけて行われ、東京のコットン・クラブでのコンサートも大成功に終わった。

ツアー前後には”アクト・ナチュラルー”に関する記事、インタビューが、ジャズ批評、JAZZ LIFE, Intoxicate (タワーレコードの雑誌), 月刊ピアノ, 神戸新聞、読売新聞, 経済新聞、朝日新聞等に掲載。

NHK FMジャズ・トウナイト、InterFM “ANA Jazz Conversation” にも出演。

”彼女は日本のピアニストとしては最高の一人と思う。” ジャズ批評、岩浪洋三